

# まほろん

通信

Since 1991



◆企画展紹介◆  
「この木、何の木?前田遺跡!」

◆連載◆  
まほろん  
学芸員のひとりごと

◆イベント紹介◆  
まほろん感謝デー

◆常設展示室資料紹介◆  
田子平遺跡出土の土面



写真:「子ども考古学教室2」での様子



公式 YouTube



公式 Instagram

まほろん 今年から年度  
主観展

縄文時代の植物利用

# この木、なんの木? 前田遺跡!

文：佐藤 璃子（学芸員）

昨年度の「川俣町前田遺跡調査成果展」に引き続き、今年度も話題の前田遺跡に関する速報展を行います。

前田遺跡は、福島県北部の伊達郡川俣町に所在しており、国道114号の改良工事に伴い、発掘調査が行われました。縄文時代の集落遺跡で、縄文土器や石器の他にも色鮮やかな漆器を含む木製品や縄文人骨、木柱など通常では残ることの少ない遺物が多数見つかっており、全国的にも注目されています。今回の企画展では、豊富な資料の中でも、植物を利用した資料を中心に取り上げています。タイトルの「この木、なんの木？」のとおり、木製品の樹種や年代を分析する方法やその結果をいっしょに紹介します。展示する資料の性質上、一部展示品を前期・後期で入れ替えます。

また、企画展関連講演会を10月27日（日）と11月30日（土）に行いますので、ぜひそちらもご参加ください。



(写真1 左：漆塗り椀 右：腕輪)

## ①前期（10月26日～11月24日）

・漆塗り椀、腕輪（写真1）

漆が塗られた椀と腕輪です。よく観察すると細かい繊維を組み合わせてつくられており、その上に漆が塗られています。前田縄文人の細かい技術を感じる事ができます。

## ②後期（11月26日～12月15日）

・火きり臼（写真2）

縄文時代の火おこしの道具です。棒を差し込むへこみの部分が焦げていることから、使用した後であると考えられます。

## ③前期・後期通して展示している資料

・漆の容器（写真3）

土器の内面に漆が付着していることから漆を入れた容器であることがわかります。漆を多く使用した前田遺跡では、このような土器が見つかっています。



(写真3)

・編み組素材木（写真4）

前田遺跡では編み組製品の他に、製品をつくるための素材木が見つかったのが特徴です。見つかった素材木は太さや長さごとに分けられていました。

その後、大学院に進学し、K

先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後、大学院に進学し、K

先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

その後も、大学院に進学し、K先生の話聞くのがとても楽しく、学ぶ喜びを強く感じ、考古学という学問が好きになりました。

まほろん  
学芸員の  
ひとりでこと  
第二回  
文 丹治 晴彦  
(学芸員主任)



# こども考古学教室



考古学教室1の様子①



考古学教室1の様子②

7月21日(日)

## こども考古学教室1「古代のしらかわ」

講師に白河市文化財課の鈴木功さんをお迎えしました。参加者のみなさんは下総塚古墳や豪族の住まい跡とされる舟田中道遺跡から、奈良・平安時代の郡役所跡である関和久官衛遺跡が見つられるまでの白河地方の豪族の足取りについて学びました。

小学6年生



下総塚  
主権に書かれた人物  
についてのお話がとても  
うかつた。色んな豪族も  
さらけ出すのが楽しかった。

小学4年生



舟田中道遺跡のことは今度  
回ひじめて知りました！今度  
遺跡についてみたいと思いま  
した。

8月4日(日)

## こども考古学教室2「県内地名の詠まれた和歌」

和歌に詠まれた福島県の地名と場所や、その背景について学んだあとに、平安時代の宮廷でうまれたとされる和紙工芸『継ぎ紙』づくりに挑戦しました。参加者の方々は、家族で和紙の配色を相談したり、和歌を書き留めたり、楽しく体験していました。



考古学教室2の様子

関所の機  
能について知りました。白河の關についてまたよくわかってほしいことがあるというのがワクワクしました。

小学5年生



2024 まほろん 感謝祭

11/2(土)・3(日)・4(月)

9:30~16:00

入館無料、三日間

弓矢にうろし  
スペシャルデイズ！



弓矢体験



火おこし選手権



編み組コースター



漆塗りしおりづくり

他にも、たのしい体験盛りだくさん！

また、特別ゲストでアクアマリンふくしまの移動水族館や那須高原ビジターセンター、国立那須甲子青少年自然の家もやってくる！

※体験には日時や数量が限られているものがあります。詳しくは感謝デー専用チラシや当館ホームページでご確認ください。



## 縄文時代の仮面

たごだいら  
田子平遺跡(浪江町)出土 土面

文: 学芸員 進藤 丈嗣



写真1

写真2

いきなりですが、クイズです。ペネチアのカーニバル、ツタンカーメン、能、ナマハゲ、カオナシ。これらに共通するものは何でしょう? 答えはそう、「仮面」です。挙げた例からも分かるように、古今東西、仮面は様々な使われ方をしています。

日本で見つかっている一番古い仮面は、なんと縄文時代のものです。素材が粘土であるため、「土面」と呼ばれています。まほろんの常設展示室にも縄文時代の土面が展示してあります(写真1)。この土面は、浪江町の田子平遺跡から出土しました。この遺跡の主な時期が縄文時代の後・晩期(約4200~2500年前)なので、同じ時期につくられたと考えられます。

長さは7.3cmと、これが仮面なの?と疑う位小さいです。裏側(写真2)が弓なりにくぼんでおり、土偶の首や土器の土手のように接合していたようすがみられないことから、もとより仮面として作られたと言えそうです。風貌は、なんとも愛らしいおじいちゃんのようにです。また、固定用の紐を通す穴があ



写真3

りません。横から見ると、耳のあたりに元々小さな粘土が付いていたと思われる灰色の痕が見えますが(写真3)、ここに紐を通すための突起がっていたのでしょうか。鼻の下の表面が荒れているように見えるのは、固定用の紐を直接掛けた痕でしょうか。

さてこの土面はどのように使われたのでしょうか。仮面の使い方は多種多様です。顔の正面につける「被り仮面」以外にも、額などの体の一部に装着する、人体に装着せずに船や家などを飾る、などの使い方もあります。面白い例として、パプアニューギニアのアベラム族は、ヤムイモにその精霊を表した仮面を装着して飾り立てます。縄文時代の例では、北海道のママチ遺跡から出土した土面は、墓の上から見つかったことから、杭などに括り付けて墓標にしたと考えられています。残念ながら、田子平遺跡の土面は墓などの痕跡が無い場所から見つかったため、使い方を絞ることが難しいです。逆に考えると色々想像できるところが楽しいといえます。

みなさんも展示中の実物を前にあれこれ使い方を考えてみませんか?

## 今後の行事予定

- 10月26日(土)~12月15日(日) 企画展「この木、なんの木?前田遺跡1」
- 11月2日(土)~11月4日(月)「まほろん感謝デー」  
♪移動水族館♪2日(土)・3日(日)
- 11月17日(日)「大瀬相馬焼に挑戦②」
- 11月30日(土) 企画展「この木、なんの木?前田遺跡1」関連講演会2
- 12月8日(日) 第4回館長講演会
- 1月18日(土)~1月25日(土) 実技講座「縄文土器づくり」
- 1月25日(土)~3月16日(日) 企画展「復興祈念展」(前期)
- 1月26日(日) 企画展「復興祈念展」関連講演会1

※行事について詳しくは当館ホームページをご覧ください(かお問合せください)。



## 編集後記

暑い夏が過ぎ、まほろんの木々もすっかり秋の装いです。10月末から開催する企画展「この木、なんの木?前田遺跡1」では縄文時代の植物利用に焦点をあてています。企画展をご覧になった後には、野外展示を敢てして縄文時代の人びとも利用していたであろう植物を探してみてくださいいかがでしょうか。



まほろん  
通信  
vol. 93

令和6年10月16日発行

開館時間 9:30 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(11/3、1/13、2/10、2/24を除く)、  
年末年始(12/28~1/4)、祝日の翌日

入場料 無料(体験学習によっては、材料費が必要となる場合があります)



福島県文化財センター 白河館  
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86  
☎ 0248-21-0700  
Fax 0248-21-1075  
ホームページ

